

大窪池とミズバショウ

標高 718 メートルの大窪池は、荻町の集落から白山方面に約 3 キロ登ったところにある沼である。ここの谷間を流れていた小さな川が土砂崩れによってせき止められてできたものと考えられている。その川を育んでいた南斜面からの流れがこの池に注ぎ込まれており、水中にはいくつもの湧水もある。池の深さは 50～130cm で、ほとんどが湿地に覆われているため、白川周辺ではあまり見られないさまざまな動植物が生息している。

中でも有名なのがミズバショウ (*Lysichiton camtschatcensis*) で、主に池の奥に群生し、雪解け直後の 4 月下旬から 5 月上旬に白いユリのような花を咲かせる。大窪のミズバショウは白川村の天然記念物に指定されており、毎年春になると多くの人が訪れる。

池には、ミズバショウに続いて紫やピンクの花を咲かせるカタクリ (*Erythronium japonicum*) や、残雪期に紫色の花鞘が特徴的なザゼンソウ (*Symplocarpus foetidus*) などの植物が生息している。この花鞘の形が座禅を組んでいる姿に似ていることから、「座禅草」と呼ばれるようになった。

また、5 月頃から見られる黄白色の縞模様のギフチョウ (*Luehdorfia japonica*) や、10 種類以上のトンボ、鯉やイワナなどの魚もこの池に生息している。